

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要	
建物名称 (株)五菱 響灘西倉庫	BEE 0.9 BEEランク B- ★★

2 重点項目への取組み度							
重点項目	得点*/満点 取組み度 評価						
1 循環型社会への貢献	3.4 /5 ふつう						
2 地球温暖化対策の推進	3.0 /5 ふつう						
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5 がんばろう						
4 高齢社会への対応	- /5 よい						
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)							
評価 凡例 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 10px;"> <tr> <td>よい 4 点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ふつう 3 点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がんばろう 3 点未満</td> <td></td> </tr> </table>		よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
よい 4 点以上							
ふつう 3 点以上							
がんばろう 3 点未満							

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア	
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)
1 循環型社会への貢献 スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 4.2
<自由記述>	<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進 スコア平均 3.0	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保 スコア平均 1.6	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 2
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応 スコア平均 -	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 0 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.28 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %
<自由記述>	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)三菱 響灘西倉庫	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区響町1丁目1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	5人
地域区分	6地域	年間使用時間	12,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年7月21日
敷地面積	13,083 m ²	作成者	甲斐 邦三
建築面積	2,400 m ²	確認日	2021年7月26日
延床面積	2,400 m ²	確認者	甲斐 邦三

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 63%
③上記+②以外の 63%
④上記+ 63%

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.3

音環境: 1.8, 温熱環境: 1.0, 光・視環境: 1.8, 空気質環境: 5.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性: 3.0, 耐用性: 2.6, 対応性: 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性・: 2.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

建物外皮の: N.A., 自然エネ: N.A., 設備システ: 5.0, 効率的: 2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.0, 汚染物質: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

地球温暖化: N.A., 地域環境: 3.1, 周辺環境: 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	営業倉庫として、お客様の荷物を保管し、搬入・搬出作業がスムーズにできるように出入口を配置して、大型トレーラーなどが駐車できるようにしています。	その他
Q1 室内環境	保管物の搬入・搬出作業の時は、開口部を開けて作業をします。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	屋内照明をLED照明を使用し、省エネ仕様としています。	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	建物内は禁煙で、喫煙場所は敷地内に部分確保しています。	その他
LR2 資源・マテリアル	不燃材を使用した建物で、部分的に修理ができるようになっています。	その他

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(株)五菱 豊瀬西倉庫

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.30			2.3
1 音環境						1.8	0.15			1.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						1.0	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0		
2 界壁遮音性能						-	-	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0		
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0		
2 温熱環境						1.0	0.35			1.0
2.1 室温制御						1.0	1.00			
1 室温						-	-	3.0		
2 外皮性能						1.0	1.00	3.0		
3 ゾーン別制御性						-	-	-		
2.2 湿度制御						-	-	3.0		
2.3 空調方式						-	-	3.0		
3 光・視環境						1.8	0.25			1.8
3.1 昼光利用						1.8	0.30			
1 昼光率						1.0	0.60	3.0		
2 方位別開口							-	-		
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策						1.0	0.30			
1 昼光制御						1.0	1.00	3.0		
3.3 照度						2.0	0.15	3.0		
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0		
4 空気質環境						5.0	0.25			5.0
4.1 発生源対策						-	-	-		
1 化学汚染物質						-	-	3.0		
4.2 換気						-	-	-		
1 換気量						-	-	3.0		
2 自然換気性能						-	-	3.0		
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0		
4.3 運用管理						5.0	1.00			
1 CO ₂ の監視						-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体は、禁煙です。				5.0	1.00			
Q2 サービス性能							0.30			3.2
1 機能性						3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-		
1 広さ・収納性						-	-	3.0		
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0		
3 バリアフリー計画						-	-	-		
1.2 心理性・快適性						-	-	-		
1 広さ感・景観						-	-	3.0		
2 リフレッシュスペース						-	-	-		
3 内装計画						-	-	-		
1.3 維持管理						3.0	1.00			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	1.00			
2 維持管理用機能の確保						-	-	-		
2 耐用性・信頼性						2.6	0.30			2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.22			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.22			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.11			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.22			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.22			
2.4 信頼性						1.0	0.20			
1 空調・換気設備						1.0	0.50			
2 給排水・衛生設備						-	-	-		
3 電気設備						1.0	0.50			
4 機械・配管支持方法						-	-	-		
5 通信・情報設備						-	-	-		

3 対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	軒高12.48m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = (80+25)×2/2000=0.105	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
倉庫業の倉庫ため、床荷重3,900N/m ² 以上							
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.20	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.40	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.40	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.28 照明:倉庫2.25w/m ² 屋外駐車場0.40w/m ²	5.0	0.71	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.29	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	消防水槽を兼ねた水槽に側溝の雨水をため、場内散水に使用する。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.29	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.29	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			鉄骨造で外装板・内装板ともビス止で、取外しが容易です。	5.0	0.29	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	
2 地域環境への配慮			3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器を使用していない。							
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペースを確保。	4.0	0.50	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.50	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	